

# コロナ下で遠隔授業を受けた子、日本は最下位 民間調査

2021/03/16 16:13 日本経済新聞電子版 893文字

新型コロナウイルスの感染拡大で登校できなかった昨年春から夏の間オンラインによる遠隔授業を受けた子どもの割合が日本は9.6%だったことが、個別指導塾運営のスプリックスの調査で分かった。

調査対象の米欧やアジア11カ国中最下位で、教育現場でのデジタル活用の遅れが改めて浮かんた。

調査は2020年8～9月、日本・米国・中国・インド・英国・フランス・ポーランド・タイ・インドネシア・マレーシア・ミャンマーの6～15歳の子どもと保護者、計2万2千人を対象にインターネット上で実施した。

コロナ下で、テレビ会議システム「Zoom（ズーム）」などを使ったオンライン授業を受けた子は11カ国平均で57.7%だった。最多はマレーシアの83.3%、次いでインドの82.4%だった。米国は71.0%、英国は46.6%、フランスは42.1%。日本に次いで低かったミャンマーは12.3%で、1桁台は日本だけだった。

日本は休校中に受けた指導で最も多かったのが「紙教材による宿題の提示」で83.1%を占め、11カ国平均の42.1%のほぼ倍だった。「授業動画の配信」や「デジタルコンテンツの提供」があった割合も11カ国中10位の水準で、アナログに頼った指導法の根強さが鮮明になった。

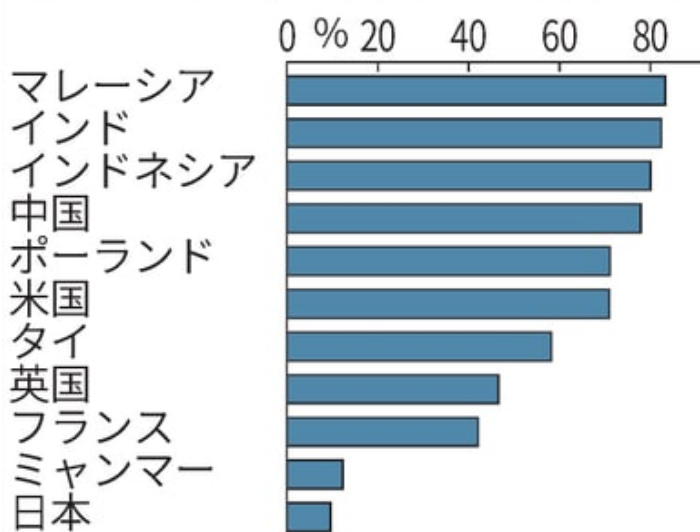
普段の家庭学習もデジタル技術が使われていない。日本の子どもが家庭学習で使う道具は「紙と鉛筆」が95.9%に上る一方、タブレット端末は18.6%、スマートフォンやパソコンがいずれも約6%にとどまった。

11カ国平均はタブレット端末とスマートフォンが約3割、パソコンは1割で、日本のデジタル機器の使用率は平均を下回った。

「パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強すべき」と考える保護者を見ても、日本は28.3%と11カ国平均の68.5%を下回り、調査対象国で最下位だった。

文部科学省は20年度末に小中学生全員への学習用端末の配布を目指している。梅田修平・スプリックス基礎学力研究所長は、教員の指導力向上を急ぐ必要があると指摘した上で「家庭も親子で一緒に勉強の計画を立て、遊びとのメリハリをつけながら端末を利用することが大切だ」と強調している。

## コロナ下で遠隔授業を受けた子



(出所) スプリックス

許諾番号30081236日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.